



平成23年度文化芸術振興費補助金
(トップレベルの舞台芸術創造事業)



モーツァルト室内管弦楽団 第142回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 142. Regulärkonzert

〈楽団創立40周年記念シリーズ〉第16回
〈ベートーヴェン・シリーズ〉その1

2011年7月9日 (土) 午後2時 ■ いずみホール

Sonnabend, 9. Juli, 2011, 14:00Uhr *Izumi Hall*, Osaka

- 主催：モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.hi-ho.ne.jp/mozart/>
- 協賛：いずみホール〔財団法人 住友生命社会福祉事業団〕
- マネジメント：大阪アーティスト協会 E-mail:artists@gol.com
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909 Tel 06-6135-0503
<http://www.oaa1985.com>



本公演は大阪ユニセフ協会を通じて、東日本大震災被災地の子どもたちのための募金活動を行います

モーツァルト室内管弦楽団 第142回定期演奏会
Mozart-Kammerorchester / 142. Regulärkonzert

2011年7月9日(土) 2:00pm. ● いずみホール
Sonnabend, 9. Juli, 2011, 14:00Uhr ● *Izumi Hall*, Osaka

〈楽団創立40周年記念シリーズ〉第16回
〈ベートーヴェン・シリーズ〉その1

ベートーヴェン

Ludwig van Beethoven (1770-1827)

《コリオラン》序曲 作品62

Ouvertüre zu „Coriolan“ op.62

ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37

Konzert Nr.3 c-moll für Klavier und Orchester op.37

I. Allegro con brio

II. Largo

III. Rondo : Allegro

* * *

交響曲 第4番 変ロ長調 作品60

Sinfonie Nr.4 B-dur op.60

I. Adagio - Allegro vivace

II. Adagio

III. Allegro vivace

IV. Allegro ma non troppo

ピアノ：内田 聡子 / Klavier : Reiko Uchida

管弦楽：モーツァルト室内管弦楽団 / Orchester : Mozart-Kammerorchester

コンサートマスター：釋 伸司 / Konzertmeister : Shinji Shaku

指揮：門 良一 / Dirigent : Ryoichi Kado

————— 〈ベートーヴェン・シリーズ〉次回予告 —————

歌劇《フィデリオ》作品72 序曲

ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 作品61

交響曲 第6番 ヘ長調 作品68 《田園》

ヴァイオリン：高木和弘(予定) 指揮：門 良一

2012年7月7日(土) 午後2時 いずみホール

〈ベートーヴェン・シリーズ〉を始めるにあたって

モーツァルト室内管弦楽団はベートーヴェンの演奏を意図的に避けてきた、といえるかもしれない。われわれがモーツァルトを表看板にしたのは、その作品の精緻な美しさを「てまひまをかけて」表現したいと考えたからである。また、極めて多様なその作品が音楽の全ジャンルに限らず行き渡っており、モーツァルトを演奏することが一つの閉じた宇宙を形成するともいえるからである。モーツァルトの世界に閉じ切っていない部分があるとすれば、それはハイドンとつながるところであろう。それゆえ、われわれはハイドンをモレパトリーとすべく努めてきた。さて、ハイドン、モーツァルト、とくれば次はベートーヴェンというのは必然であるように思える。だが、彼の音楽は二人の先輩が創り上げた枠組みから、晩年のハイドンがいみじくも「破門」というかたちで危険視したように、大きくはみだしている。上に述べたわれわれの演奏の建前からいえば、安易にベートーヴェンを取り上げることは、せっかく築き上げてきたモーツァルト、ハイドンの演奏スタイルを壊してしまうことになりかねないのだ。

世の演奏家たちはみな口々に言う「モーツァルトやハイドンはむずかしい」と。「ベートーヴェンはむずかしい」と言うのを聞いたことがない。だがそれは大きなまちがいである。この際声を大にして言おう、ほんとうはベートーヴェンが一番むずかしいのだ、と。なにがむずかしいとって、整った古典的形式の中でベートーヴェンの音楽の持つ精神的な高さを表現するのがむずかしいのである。形式と内容のバランスを取るのが困難なのである。ハイドン、モーツァルトと同じく、ベートーヴェンの音楽も美しくあるべきであろう。本シリーズにおいてベートーヴェンを力強く、そして美しく表現できれば本望である。

《コリオラン》序曲

1806年、ベートーヴェン36歳の作品。同年に作曲されたものとしては他にヴァイオリン協奏曲(作品61)、ピアノ協奏曲第4番(作品58)、3曲の弦楽四重奏曲集《ラズモフスキー》(作品59)、本日演奏する交響曲第4番などがある。コリオランとはローマ史に登場する英雄コリオラーヌスのことで、シェイクスピアも戯曲の題材としている。ベートーヴェンはウィーンの戯曲作家H.J.v.コリンの作品に感動してこの序曲を書いたといわれる。悲劇の英雄である主人公を表現した重厚な音楽で、「ベートーヴェンの調」ハ短調で書かれており、他のハ短調の作品、交響曲第5番《運命》、ピアノ・ソナタ《悲愴》、交響曲第3番《英雄》の第2楽章(「葬送行進曲」)、本日演奏するピアノ協奏曲第3番などと共通するところが多い。

ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調

1800年、30歳の作。ピアノ協奏曲の分野では先輩モーツァルトが23曲もの傑作を残しているのでベートーヴェンはその影響を克服するのに苦労したと思われる。モーツァルトのハ短調の協奏曲(第20番K.466)を特に好み、カデンツァまで書いているが、この第3番においてはモーツァルトのもう一つの短調のピアノ協奏曲で同じハ短調の第24番 K.491の影響が顕著である。ベートーヴェンの武骨で直截な表現はモーツァルトの洗練された華麗さからは遠いが、独自の方向を切り開いており、力強い魅力にあふれている。第1楽章冒頭に示される主題が長調に展開したとき、同じハ短調の《運命交響曲》のフィナーレ

主題を思わせるところなど、この時期ですでに十分ベートーヴェンらしさを打ち出しているといえよう。第2楽章がホ長調という遠い調に転調しているのは、第1番(ハ長調→変イ長調)や第5番《皇帝》(変ホ長調→ロ長調)と軌を一にしており、これもモーツァルトからの脱却を図ったものともいえようし、ロマン派の兆しと見ることもできよう。

交響曲 第4番 変ロ長調

ベートーヴェンの9曲の交響曲の中で最も古典的端正さを持つと評される作品。『二人の巨人(第3番《英雄》と第5番《運命》)に挟まれたギリシャの乙女』というシューマンの言葉はあまりにも有名である。しかしそうはいっても、二人の巨人ほどではないにしろこの曲もベートーヴェンらしい気迫に満ちた男性的な音楽であることはまちがいない。この曲の一見古典的なたたずまいはハイドンの交響曲のスタイルをかなりの程度継承していることから来ている。ハイドンの同じ変ロ長調の交響曲 第102番と各楽章の拍子の設定が共通しているのである。だが、第1楽章の暗闇を手探りで進むような序奏からアレグロへの一気に爆発するような展開や、第3楽章スケルツォの軽妙で自由奔放な転調など、先輩ハイドンを十分に凌駕しているといっているのではないだろうか。全体としてのユーモアにあふれた語り口は、《運命》や《田園》を生み出す直前の時期のベートーヴェンの余裕をも感じさせるみごとさである。

速報！！ 創立40周年記念CD 第1弾！

〈第135回定期演奏会〉2010年5月30日 いずみホール のライブCD

ウェーバー：《オベロン》序曲

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 《皇帝》

シューベルト：交響曲 第8番 八長調 《ザ・グレート》

ピアノ独奏：内田裕子 管弦楽：モーツァルト室内管弦楽団 指揮：門 良一

CD2枚1組 特価¥2,000(本日、ロビーにて発売中！)

第143回定期演奏会

〈クライネ・モーツァルト〉第79回例会

2011年10月10日(月・祝) 午後2時 ●中央電気倶楽部

〈モーツァルトのハルモニウムジーク(管楽合奏)〉

2つのオーボエ、2つのホルンの、2つのファゴットののためのディヴェルティメント 変ロ長調 K.270

ピアノ、オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットののための五重奏曲 変ホ長調 K.452*

2つのバセットホルンとファゴットののためのアダージョ ヘ長調 K.410

13管楽器のためのセレナーデ 変ロ長調 K.361(グラン・バルティータ)

ピアノ：福井亜貴子* ファゴット：佐伯利之* 倉永晴美

オーボエ：福田 淳 中江暁子* コントラファゴット：羽生尚代

クラリネット：高橋 博 門 小夜子* コントラバス：南出信一

バセットホルン：松原央樹 西川香代 指揮とお話：門 良一

ホルン：佐藤明美* 垣本奈緒子 細田昌宏 小坂智美

第144回定期演奏会

2011年12月11日(日) 午後2時 ●いずみホール

〈モーツァルト室内管弦楽団創立40周年記念シリーズ〉第18回

〈モーツァルト記念合唱団創立20周年記念〉

モーツァルト：《魔笛》K.620 序曲

ラター(1945～)：マニフィカト(1990)*

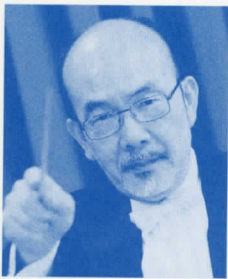
モーツァルト：レクイエム ニ短調 K.626

ソプラノ：高嶋優羽 テノール：西垣俊朗

アルト：山田愛子 バス：田中 勉

合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)

指揮：門 良一、益子 務*



門 良一 ●指揮

Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。フルートを曾根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。62年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年、モーツァルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツァルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。

1982年より、NHK大阪文化センター、1992年より、同神戸文化センター「モーツァルトを聴く」の講師を務め、現在に至る。京都産業大学名誉教授。



内田 玲子 ●ピアノ

Reiko Uchida, Klavier

神戸女学院(現・大学)音楽学部卒業。山田康子、井口基成の両氏に師事。第19回毎日音楽コンクールピアノ部門第1位並びに特別賞、1955年大阪市民文化祭賞、1956年毎日音楽賞・新人奨励のための特別賞受賞。山田和男、朝比奈隆、森 正をはじめ著名指揮者のもと大阪放送交響楽団、関西交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、京都市交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、ブルガリア国立トルブーヒン室内オーケストラ、テレマン室内管弦楽団他、多数のオーケストラと協演。2010年にはモーツァルト室内管弦楽団と協演、好評を博した。相愛大学音楽学部で長く教鞭をとりながら、精力的な演奏活動を展開し、2000年にはいずみホールにて音楽生活50周年記念リサイタルを開催。その後もリサイタル他、数多くの演奏活動を続けている。02年宝塚市民文化賞受賞。相愛大学音楽学部名誉教授。日本ショパン協会関西支部理事、宝塚演奏家連盟運営委員。



モーツァルト室内管弦楽団 Mozart - Kammerorchester

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、40年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケ

ストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。'91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで'90年からは大阪いずみホールを本拠として定期演奏会を、また東京定期演奏会は既に16回を数えている。海外では'88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス('85、'87年)、シプリアン・カツァリス('93、'94年)、ペーター・ダム('83、'86、'88、'98、'00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル('86年)、ライナー・キュッヒル('90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。'91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲などで活発に協演するほか、'93年には堺シティオペラとの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。'06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。—「すばらしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。2007~9年には〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉(全10回)を開催。2009年からは3年間にわたる〈創立40周年記念シリーズ〉を開始している。

モーツァルト室内管弦楽団 / 出演メンバー
コンサートマスター ● 釋 伸司

第1ヴァイオリン	釋 伸司	川島多美子	境 綾子	クラリネット	高橋 博
	本多 智子	原田 潤一	大西 泰徳		門 小夜子
	谷口 朋子	幣 晴代	コントラバス	南出 信一	ファゴット 佐伯 利之
	北村 奈美	池内 美紀		北田 由美	倉永 晴美
	森住 憲一	道幸 明美	ヴィオラ	佐々田ゆかり	ホルン 佐藤 明美
	菊池 優理	佐份利 祐子		大江 浩志	蒲生 絢子
	中野 瑞己	松井 紀子	フルート	本庄 ちひろ	トランペット 大西 由起
第2ヴァイオリン	中川 衛子	高野 ちか		戸田めぐみ	森下 智稔
	清水 めぐみ	日野 俊介	オーボエ	松本 剛	ティンパニ 小谷 康夫
		野田 祐子			

会 長 岡 本 道 雄 (京 都 大 学 名 誉 教 授)
理 事 谷 口 安 平 (京 都 大 学 名 誉 教 授) 森 井 清 二 (関 西 電 力 株 式 会 社 顧 問)
吉 野 泰 生 (住 友 生 命 保 険 相 互 会 社 名 誉 顧 問)
(50音順)
顧 問 平 松 邦 夫 (大 阪 市 長) 伊 藤 郁 太 郎 (大 阪 市 立 東 洋 陶 磁 美 術 館 館 長)
梅 原 猛 (国 際 日 本 文 化 研 究 セ ン タ ー 顧 問)

法人会員 (50音順)

荒川化学工業	サントリーホールディングス	大同ケミカルエンジニアリング	丸山興産
井上冷熱	住友金属工業	高松建設	三井住友カード
関西電力	住友精密工業	日本通運京都旅行支店	
きんでん	住友生命保険	林六	
小林製薬	住友倉庫	福山製紙	
阪野商店	ダイキン工業	丸紅	

個人会員 (入会順、敬称略)

松井繁一	村本孝夫	松枝多加子	松井とも子	野原清秀	上田富士子
深田晴世	松本幸道	高杉方宏	得田栄蔵	堀正二	植田史子
河野幹雄	笹川忠士	川島弘章	菱谷勝次郎	中野勇	松本桂子
河野奈津子	緒林桂子	川島啓助	足立宣治	松井基純	佐野哲昭
福岡隆子	碓井昭彦	中井武司	東武次郎	松井香代子	池田米
梅原一哲	碓井みち子	中井佐和子	竹林大	山本道子	八木孝昌
石本三千也	長井重龜	豊田成子	豊田紘生	大磯隆一	高田早智子
田村真也	岸田多門	切畑敦詞	奥野哲久	細井提吉	大西富久子
岸田克己	能田豊	中東富佐子	飯田祐子	大谷弘枝	山田晴三
梅村博也	宮井茂治	三石武男	宮井芳子	大原清司	西垣真理子
屋良正和	祐野尚子	内藤芳美	塩脇昭司	大原典子	榎原良行
國友正和	金定秀光	神林恒道	塩脇祥子	伊藤久栄	渡辺義明
稲垣千代子	金定嘉也子	杉浦和子	一木晃	福谷巖	小川雄介
浮田俊太郎	中嶋允子	野村透	岩崎弘一	山村哲夫	能田久美
桑山弘	福岡昭吉	今井安男	河渕清子	速水洋紀	下園靖子
三谷郁子	菅正徳	玉手隆子	佐竹時子	安井敏雄	河井洋子
三浦信一郎	日高穂	野崎志朗	千宗守	天尾登	宮北浩司
水島敬夫	藤原啓助	橋本靖昭	荒木陽子	橋本博	芳中民代
渡辺優子	馬場明和	有賀熙雄	宮崎悦朗	川添和子	奥村一二
平川美津子	阪野和子	佐野哲郎	栗原順子	梁瀬健	市崎英二
安藤邦洋	宮川泰濟	小柳陽一	完倉正信	松山壽一	
橋本太三雄	和田暁夫	田中四郎	野口祐三	松谷郁子	
阿部由美子	桑名孝子	村西良彦	野口外志子	山下鉄男	
中川泰幸	石光正男	島村猛	森本武	古川法史	
石上豊子	松枝正明	河原恭子	小山浩	萬野尊昭	

会 費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。
・法人会員につきましては年会費1口10万円です。
会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口に付き個人各1枚、法人各5枚)
・ご同伴者は10%割引となります。
・関連演奏会のご案内又はご優待を致します。
・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。
・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。
(有効期間は入会時より1年間です。)
随時ご入会いただけます。